

「自分を見つめる」 「企業を知る」の両輪で、 進路のミスマッチを防ぐ

▶ 愛西工科高校(愛知・県立)

取材・文／笹原風花

「大事なのは、ミスマッチが起こらないこと」と、進路指導主事の佐藤巧二先生。そのために、「自分を見つめる」「企業を知る」の両輪で、マッチングを重視した進路指導を実践してきた。

「自分を見つめる」ためのツールの一つが、キャリアパスポートだ。愛知県では3年前から導入しているが、活用状況は中学校により異なり、中学校からの積み上げがある生徒もいれば、実質的に高校からスタートする生徒もいる。同校ではプリント形式のものを使い、3年間を通して1冊のファイルに綴じ、面談や就職活動進学の際に振り返りやすいようにしている。「毎学期の頭に目標を設定し、学期末

「キャリアパスポート」で 自分を見つめる

には、どんな資格に挑戦したか、定期テストや部活動はどうだったか、何ができて何ができなかったか、といったことの振り返りを行っています。ただ振り返るのではなく、そこから見えてきた課題を次の学期に活かしていくというPDCAサイクルを回し、自分で自分を高めていけるような指導を心掛けています」

キャリアパスポートに自分で考えたことを書くことは、履歴書などを書く練習にもなる。一方、最初はなかなか書けない生徒も少なくない。そんな生徒には教員が寄り添い、「問いかけながら指導するようにしている」と佐藤先生は言う。

「どういうことを考えているか、将来何をしたいかなど、生徒がうまく言葉にできない部分を会話のキャッチボールにより引き出して、これってこういうことだね、

工場見学、社会人講話で 企業や仕事を知る

また、「企業を知る」ため、1、2年次には県内の事業所を訪れる「工場見学」を、進路指導行事の1環として実施。コロナ



進路指導主事
佐藤巧二先生

と置き換えながら話をしています。最終的には志望動機などを自分で書かなければなりませんから、進路指導に限らず、考えていることを言語化する支援は意識的に行っています」

進路指導の課題とテーマ

佐織工業高校として1976年に愛西市に開校した。グローバル化、デジタル化の進展に伴う産業界のニーズの変化を踏まえ、愛知県では2021年度にすべての県立工業高校を工科高校へと改称。同校も愛西工科高校として生まれ変わり、機械科、電子工学科に加えてロボット工学科が新設され、建築デザイン科も名称が新たになった。現在は4学科体制で、校訓「活(いかす) 物をいかし、人をいかし、己をいかす」は、校名が変わった現在も引き継がれている。

進路については、生徒の8~9割が就職を希望。ここ数年は専門学校・大学への進学希望者も若干増えており、大学進学は指定校推薦が中心となっている。高校受験時に学科を選択する必要があるが、なかには「なんとなく」決めてしまう生徒がいるのが実情。高校で専門分野について学んでみたものの、思っていた内容と違う、自分には向いていないと、進路を変更する生徒も一定数いる。課題は、企業・学校と生徒とのマッチング。生徒が自分を知り、企業・学校を知ったうえで納得のいく選択するために、そして、入社・入学後のミスマッチを防ぐために、自己を深く掘り下げる力、そしてそれを表現する力を育てることに取り組んでいる。

◎進路状況(2022年3月実績)

大学進学4人、専門学校進学29人、
就職131人、その他(受験準備など)5人

就職先・進学先は愛知県を中心とした中部地方の企業・学校が多いが、求人や指定校推薦は他府県からも来ている。求人の状況は、コロナ禍の影響を受けることなく、大きくは変化していない。

◎School Data

1976年開校/ロボット工学科、機械科、電子工学科、建築デザイン科/生徒数393人(男子387人・女子6人)

3-3 就職に関する傾向と対策

① 求人状況：令和2年微減後は回復傾向。製造業は堅調。



R3：求人件数1801、求人総数1918、求人企業数1253社 → 求人単価=15.46倍
 R2：求人件数1770、求人総数1888、求人企業数1225社 → 求人単価=12.00倍
 R1：求人件数2016、求人総数2186、求人企業数1299社 → 求人単価=14.97倍

② 内定状況：1次不合格14名。採用基準の厳格化が加速か。



1次不合格者は180名をピークに増加し、会社に必要人材を厳選する時代に、企業の採用は、**学力+人間力**の時代へ。

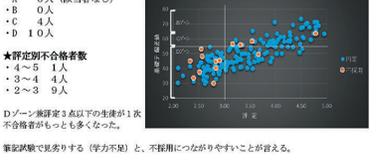
③ 不採用理由：「面接での対応」が1位。「基礎学力不足」2位。



◆「面接での対応」が昨年度に続き不採用理由1位だった。また、依然、基礎学力不足も高められている。
 ◆面接で話さない、コミュニケーション能力の不足、入社したい意欲が感じられない。
 ◆必要のことを調べておらず、見当違いのことを話している。また、志望職種がミスマッチ。
 ◆試験当日に、遅刻し、事後対応が良くなかった等の指摘もあった。

面接練習は「うそをつかない」とにかく何度も何度も練習をし、毎年、多くの先輩がメッセージを残しています。面接で不合格は「自己責任」です。

④ 対策：基礎学力を高める努力が不可欠！ 脱、Dゾーン！！



一次不合格の人で、Dゾーン、評定3点以下は3/4を占めています。中学までの義務教育が理解できていない、見落ししています。
基礎力診断テスト、Dゾーンからの脱出を！！

最新(前年度)の求人や内定の状況に加え、不採用の理由や、採用1次試験の不合格者の成績分布のデータもグラフ化して提示。基礎学力を高めることは就職活動においても重要であることを、エビデンスを添えて生徒に訴えている。

前年度の3年生に対して行った「就職活動振り返りアンケート」の結果を掲載。「後輩に伝えたいメッセージ」はリアルで生徒にも響くそう。「面接試験・質問内容ランキング」も興味深い。「近年は、仕事のストレスも溜めないか(自己コントロールできるか)などを見ている傾向がある」と佐藤先生は分析する。

A 就職活動振り返りアンケート結果

3年生が、自分の就職を振り返った結果です。

- 就職の動機、動機を振り返り、再評価、再検討。
 - 就職の動機、動機を振り返り、再評価、再検討。
 - 就職の動機、動機を振り返り、再評価、再検討。
- 面接試験の振り返り。
 - 面接試験の振り返り。
 - 面接試験の振り返り。

B 令和3年度 面接試験・質問内容ランキング

令和3年度の就職試験において、本校生徒124名の面接で問われた質問の出題頻度を調査書を元に集計しました。企業の採用担当者は、面接で何を懸念しているのか、何を知らたいのか、最新の面接情報からその傾向を知り対策を立て、失敗しない面接にしましょう。「敵を知り、己を知れば 百戦危うからず」

順位	出題数	志望理由	質問内容
1	24 (-44)	志望理由	
2	46 (-16)	部活動について(苦労したこと、うれしかったこと、何を学んだか)	
3	36 (-24)	趣味・特技	
4	32 (-4)	高校生活で一番がんばったこと	
5	27 (-11)	通塾の方法、時間は	
6	27 (-11)	好きな科目・きらいな科目・得意な科目・苦手な科目	
7	25 (-28)	長所・短所	
8	25 (-13)	自己PR	
9	23 (-11)	希望する仕事・部署	
10	23 (-21)	資格について	
11	22 (-2)	自己紹介	
12	21 (-2)	休日の過ごし方	
13	18 (-)	学校生活で一番印象に残っていること	
14	17 (-)	残業・出張・夜勤などについて	
15	17 (-24)		
16	14 (-)	会社の印象、イメージ、見学の印象	

「キャリアデザインノートは本校独自のものです。毎年、バージョンアップしています。卒業生の就職先や進学先のデータは、

前年度の3年生に対して行った「就職活動振り返りアンケート」の結果を掲載。「後輩に伝えたいメッセージ」はリアルで生徒にも響くそう。「面接試験・質問内容ランキング」も興味深い。「近年は、仕事のストレスも溜めないか(自己コントロールできるか)などを見ている傾向がある」と佐藤先生は分析する。

前年度の3年生に対して行った「就職活動振り返りアンケート」の結果を掲載。「後輩に伝えたいメッセージ」はリアルで生徒にも響くそう。「面接試験・質問内容ランキング」も興味深い。「近年は、仕事のストレスも溜めないか(自己コントロールできるか)などを見ている傾向がある」と佐藤先生は分析する。

もちろんですが、前年の学年で見えてきた課題も大事にしています。試験会場にたどり着けない、面接で想定外の受け答えをしてしまったなど、毎年、何かしら問題が起きるんです。同じ問題が再発しないよう、上の学年の失敗体験を下の学年の進路指導に活かすようにしています」

採用試験や入試で面接を受けた生徒は報告書を提出することになっており、質問項目や試験内容などを回答する。佐藤先生は集めたデータを集計し、キャリアデザインノートにランキングにして掲載。こうすることで、近年の傾向なども見えてくるといふ。

「行ける会社」ではなく、「行きたい会社」を選ぶ

「キャリアデザインノート」では、採用・不採用の結果と高校での成績の相関関係も提示している。「生徒に発破をかける意味合いもある」と佐藤先生は言う。「入社試験で不採用だった生徒の基礎学力テストや定期テストの成績を見る



と、やはり全体として良くないんです。言葉で、勉強も大事だからがんばればよ、と言うだけでは響かなくても、数字やデータとして提示されると、このままじゃまずいなど刺激になると思うんです」

その一方で、1名のみの求人にも2名の志望があった場合は、成績だけでは選考しないようにしているという。

「校内選考が必要なケースでは、一般的には成績上位者が選ばれますが、本当にそれでミスマッチが起こらないのか、十分に注意する必要があります。愛知県は製造業が盛んで、高卒の人材も求められており、県内の工科高校の生徒にとつては売り手市場。だからこそ、条件面だけでは選んでほしくないんです。行ける会社ではなく、行きたい会社を選ぶことが大事ですから」

さらに佐藤先生は、こう続ける。「行きたい会社」を選ぶためには、自分はどうなるものを作りたいのか、何を生業にしたいのかを深掘りし、それができる企業を選ぶことが大切です。ただ、「どん



学科ごとに開催される卒業生によるガイダンスの様子。先輩のリアルな話は、生徒が自分の進路や将来を考えるきっかけになっている。

な仕事をしたいの？」など漠然とした質問だと生徒は答えにくいんです。どんなことをしていると時間が経つのが早く感じるか、実習で図面を書いているときとパソコンで作業をしているときとどちらが楽しいか、コツコツやるのが好きか嫌いか…などと尋ねるようにしています。具体的なシーンを思い浮かべながら考えることで生徒も仕事に対するイメージが掴め、じゃあこういう仕事に向いているかもしれないね…と進路選択につなげていくことができます」

ミスマッチが起こらないよう、進学後まで見据えてサポート

コロナ禍以前は生徒の約9割が就職希望だったが、この2年ほどは進学希望者が若干増えている。その理由について、

「コロナ禍で経済が不安定ななか、就職を先延ばしにして見定めようという心理がはたらいっているのかもしれない」と佐藤先生は推測する。

進学希望者への指導においても、重視しているのはミスマッチの防止だ。同校では学科横断の「大学進学コース」を設けており、進学希望者は専門科目が少なめに設定されたカリキュラムで学ぶ。

「一部の専門科目の代わりに、数学、英語など普通科で学ぶような科目を学びます。受験に必要なからという意味合いではなく、大学に入ったもの一般教養科目の授業についていけない…というミスマッチを避けるためです。本校では進学希望者は多くはないですが、希望すれば入学後まで見据えてしっかりとサポートする体制が整っています」

成果と課題

地域の中小企業と連携し、インターンシップを充実させる

マッチングを重視した進路指導の結果、入社・入学後のミスマッチは最低限に抑えられている。今後に向けた課題として佐藤先生は、「生徒を外に出すこと」を挙げる。

「現状ではインターンシップが手薄なので、1、2年生を対象にしたインターンシップを充実させていきたいと考えています。特に大事にしたいのが、地場の中小企業です。生徒も勉強になりますし、

企業にとつても生徒間での認知度が上がるといふメリットがあるので、マッチングの視点も意識しながら企業と一緒にやっていきたいと考えています」

また、生徒のなかでもインターンシップを経験してほしい層があると佐藤先生は言う。

「部活もやっていない、資格取得にも熱心じゃない…という生徒に、外を見せること、経験させることで、刺激を与えたいんです。一生懸命に働く大人の姿を通して、働くことの大変さや尊さを肌で感じてほしいと思います」